

色とりどりに咲かせたい花だんの花

ペンネーム ピンクのコスモス

私の住む町内では、月に一度高齢者を対象としたサロン活動を実施しており、長年そのお世話役をさせていただいています。

今年は6月から8月にかけて、感染予防のため活動を自粛し、いざ9月から活動再開する内容については工夫をこらしました。「集まることができないのは寂しい。反面、人が集まる場に行くことは怖くもある。」という不安の声を参加者から聞いていたからです。

そこで9月のサロンメニューは戸外活動とし、自宅で育てた花の苗（小さな親切運動で頂いたコスモスの種で育てました）を、公民館の花壇の周りに植え替えることにしました。植え替え自体は小一時間ほどで終わったのですが、作業が終わっても誰も帰ろうとせず、風通しのいい戸外で近況を確かめ合ったり、励まし合ったり、思いのほか話に花を咲かせる場となりました。やはり顔を合わせて話すということが、互いの元気を引き出す大事な時間であることを改め

て実感した出来事でした。

今では花壇の水やりや草取りなど、サロンメンバーの自発的な作業をきっかけに、花壇の周りが自然に誰かが交流し合う場となっています。花で町がきれいに色づいていくほか、声を掛け合う活気を感じられることが、私の大きな励みとなっています。



いつもの私のさんぽみち

ペンネーム ヒミツ

早いもので、民生委員をお引き受けして十年と少しが経ちました。活動してきた中には様々なことがありましたが、新型コロナウイルス感染症以降は、今までの取り組みが一変してしまったように感じました。

人と人の接触の機会を減らすことと、訪問や見守りの活動をどのように両立させたらよいのか、迷ったこともありました。

最近、健康のために歩くことを意識し、散歩に出るようになったことを機に、気がついたことがあります。散歩中に道ですれ違ったとき、お互い気軽に声をかけあったり、顔見知りではなかった方ともあいさつを交わすようになり、特別なことをしなくても自然に、以前のような活動が戻ってきたように思えました。

今では町内のサークル活動にも足を延ばし、お声かけをしたり、把握ができなかった方には後から電話で様子を聞くように努め、相談につなげるようにしています。

地区でのイベントや集まりの機会は少なくなったとはいえ、人とのつながりは至る処にあることを感じています。



サロンは高齢者の楽しみ

ペンネーム あおいのばあちゃん

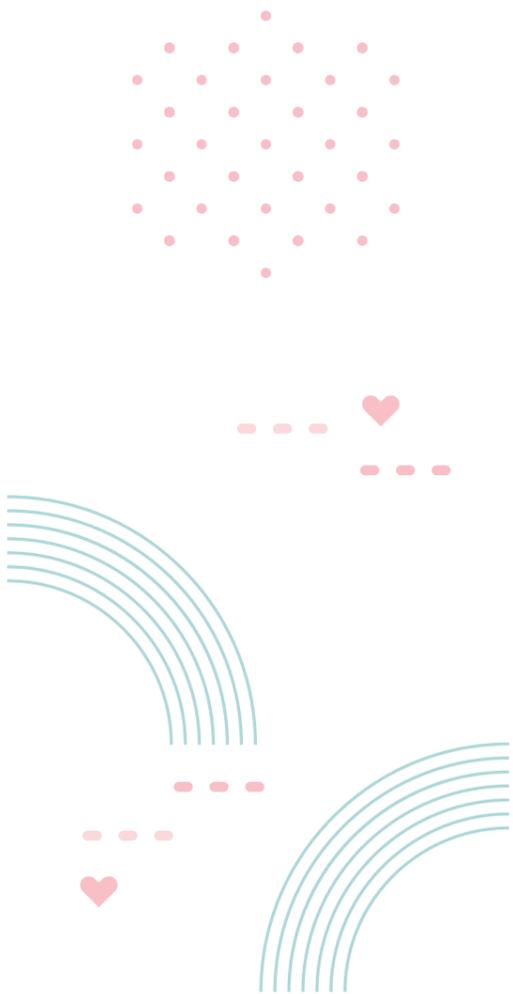
「サロンに行かれますか？」と友達からの誘いの電話です。今日は、社会福祉協議会のお世話人が、日頃外出の少ない高齢者の方のために開催して下さるサロンの日です。体力測定、血圧測定、ビデオ鑑賞、年末には生花等、年間の予定表まで届けてくださいます。

長寿の世になり、百歳の方が8万人、男性が1万6千人、女性の長寿には驚くばかりです。ちなみに私は94歳です。

私の近所に魚屋があり、午後から三々五々と人が集まり、買物そっちのけで「肩の凝りはどう?」「膝の痛み少しは取れた?」「よく眠れる?」等、お互いに労い励まし合います。また、家で介護されている方の話も聞いて慰めることもあります。そして、最後には「美味しい物を食べて元気で毎日過ごそうね。」と別れます。魚屋の女主人は、文句も言わず笑顔で「店はサロンや。」と居心地よくしてくださいまして、みんな気兼ねなく楽しい安らぎの一時を過

ごさせていただいています。

新型コロナウイルスの流行が長期化し、高齢者の外出もままならず、ストレスもたまります。緊急事態宣言中のサロンは中止でしたが、「おうちでサロン」と、家でできる脳の体操や運動が紹介された冊子が配付されました。この冊子には、クイズやパズル、塗り絵などがあり、辞書で調べたり色鉛筆を使ったりと若いころを思い出しながら楽しんでおります。高齢者を優しく見守ってお世話して下さる福祉従事者の方々に深く感謝申し上げます。



迷子の子猫にゃん吉

ペンネーム まねきねこ

雨上がりの六月吉日、施設の利用者の一人が「あーネコ」というので外を見ると、白い体で頭としっぽが茶色の雄の子猫がどこから現れたのか、暖かい日差しの中、裏庭のウッドデッキで悠々と寝そべっている姿が目に入りました。飼猫なのか、野良猫なのか…。

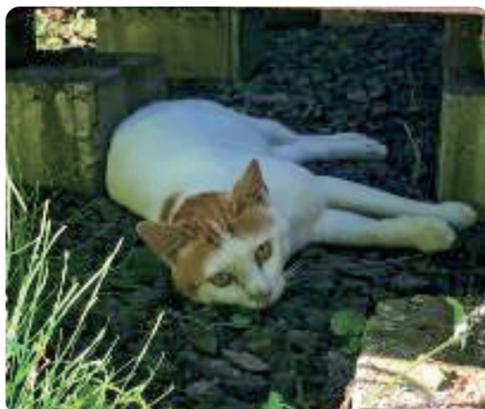
よく見ると、どこか人間味のある表情が愛らしくおっとりしている。食事はどうしているのかと思い、少しご飯を与えてみると、恐る恐る食べにきました。その食べっぷりのいいこと。お腹が空いていたのでしょう、ガツガツきれいに完食しました。

その後、どこからか毎日姿を見せ三食しっかりと食べるようになり、食べ終わると又どこかへ姿を消すようになりました。今では食事の取りすぎで肥満になりつつあるので注意して食事を与えています。

名前も勝手に「にゃん吉」と付け、私たち

は毎日にゃん吉のことを気にかけ、にゃん吉が来るのを楽しみに待つようになりました。皆の優しい心が通じたのか、食事の時間以外にも姿を見せるようになり、自分の定位置から私たちのことを眺めています。男性の一人が「もう家族の一員やな」と言い、ほっこりした空気が流れます。

もっと施設の私たちに慣れ、スキンシップが互いにできることを期待して、これからもにゃん吉のことを皆で温かく見守っていききたいと思っています。



居場所

樽本博史

私の勤める施設は地域の方も障がいのある方もともに集う場所です。地域の方にメダカをいただき育てています。メダカと相性がいいという体長2センチほどの、淡水に棲むエビを飼い始めました。メダカを見に来られる地域の方や、自分では世話できないからと施設でメダカを見るのを楽しみに来られる方もいます。エビを見るのを楽しみにされている方もいます。

メダカよりもエビを眺めるのが好きな彼女は、気分の変化が大きい病気で、職業をいろいろ変わってきました。最近スーパールのレジの仕事を始め、空き時間に来所することが増えました。

普段エビは水草の根につかまって周りのプランクトンを食べて生きています。水草を持ち上げられて慌てて水に飛び込む様子を見て喜んでいます。エビは「やめろよー」と言いたげにせわしく泳いでいます。そうしてエビと遊ぶのに飽きると、観葉植物の近くで自撮りしたり、SNSにあげる写真をソファで選ん

だりしています。出入りする人に「最近仕事でこんなことを言われて困った」「トイレに行くのに代わってもらうのを言いにくくてなかなか行けない」などと話しています。そうしてしばらくすると「じゃ〜ねえ〜」と言ってニコニコと出かけていきます。

コロナの中、集まった人々と会ったりするのがリスクになる世の中ですが、こういう何でもない日常が貴重なんだなあと思えます。

